

# 埼玉県小学唱歌

尋常四年用

1931年3月

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



埼玉縣  
**小兒唱歌**

兼教材筆記帖

埼玉縣教育會選定

尋常四年用

7

埼玉県立図書館



3 1058422

東京

發行

口 型 圖

(外山國彦先生)



(ア)



(イ)



(エ)



(オ)



(ウ)

(外山國彦先生著「標準唱歌學習帖」より御承認を受け轉載)

LA 374

歌曲筆記代用

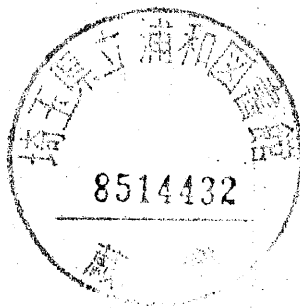
埼玉縣教育會選定

埼玉縣小學唱歌 尋四

東京 文社出版

## よい しゃうか の べんきやう

1. 唱歌を歌ふ時は、體操の「氣を附け」と同じ様な姿勢ですが、あまり堅くならないでのんびりとして、兩脚でしつかりと立ち、身體をまつすぐにし、ゆつたりとした氣分で歌ひなさい。身體を前後や左右に動したり、顔を上や下に向けて歌ふのはよくありません。腰かけたままの時はなるべく深く腰を引いて、上體を眞直にし、腹に少し力を入れて、ゆつたりした氣持で歌ひなさい。
2. 唱歌はよく歌ふばかりでなく、よくきく事に心がけなければなりません。先生がピアノやオルガン等をお奏き下さつたり、獨唱して下さつたりする時、又は友だちが歌ふ時などは、よく注意してこまかな處迄きき分け味はふやうにしなければなりません。
3. ほんたうに自分の歌ふのをきく心持でうたはねばなりません。
4. 唱歌は、調子よく拍子正しく、氣持よく歌ふのがよいのです。大聲をはり上げて歌ふのはよろしくありません。先生のお話や、譜に示してあるいろいろな記號をよく見て、きれいな聲で自由自在に樂々と歌ふのです。
5. 唱歌の意味をよくのみこんで、その氣分を味ふ心持で歌ひませう。
6. 歌ふ時の呼吸に注意し、吸ひこんだ息が歌ふ時に不足して、何處ででも息つきをするやうなことは、大へんいけないことです。氣をつけませう。
7. 歌ふときは、先生のお示しになる口形によく注意して、聲をきれいはつきりと、強くも弱くも自由に出せる様に心がけなさい。



# 埼玉縣小學唱歌目次

(尋常四年の部)

|       |    |
|-------|----|
| 樂譜の見方 | 1  |
| 君が代   | 6  |
| 勅語奉答  | 7  |
| 天長節   | 8  |
| 明治節   | 9  |
| 一月一日  | 10 |
| 紀元節   | 11 |
| 金剛石   | 12 |
| 螢の光   | 14 |
| 仰げば尊し | 15 |
| 校歌    | 16 |

## 第一學期

|              |    |
|--------------|----|
| 1 春の小川(文)    | 17 |
| 2 春風(檢)      | 18 |
| 3 燕(檢)       | 19 |
| 4 藤の花(文)     | 20 |
| 5 山の馬車(認)    | 21 |
| 6 蠶(文)       | 22 |
| 7 風鈴(認)      | 23 |
| 8 田舎の四季(文)   | 24 |
| 9 曾我兄弟(文)    | 26 |
| 10 柳のぶらんこ(認) | 28 |
| 11 漁船(文)     | 29 |

## 第二學期

|            |    |
|------------|----|
| 12 海の世界(檢) | 30 |
| 13 ひまはり(認) | 31 |
| 14 近江八景(檢) | 32 |
| 15 山登り(檢)  | 34 |

|              |    |
|--------------|----|
| 16 廣瀬中佐(文)   | 35 |
| 17 蟲の樂隊(檢)   | 36 |
| 18 たけがり(文)   | 38 |
| 19 村の鍛冶屋(文)  | 40 |
| 20 りんごと子供(認) | 41 |
| 21 茅刈(認)     | 42 |
| 22 山里(檢)     | 43 |

## 第三學期

|             |    |
|-------------|----|
| 23 雪合戦(文)   | 44 |
| 24 北國の雪(檢)  | 45 |
| 25 川中島(檢)   | 46 |
| 26 楽しいお家(認) | 48 |
| 27 昇る旭(檢)   | 49 |
| 28 八幡太郎(文)  | 50 |
| 29 二宮尊徳(檢)  | 52 |
| 30 橘中佐(文)   | 53 |

## 参考曲及補充曲

|         |    |
|---------|----|
| 新入生     | 54 |
| うたのけいこ  | 56 |
| たんぼぼ(認) | 57 |
| かなりや    | 58 |
| 酸模の咲くころ | 60 |
| げんげ草    | 62 |
| 蝶々のお家   | 64 |
| お家忘れて   | 65 |
| 夏の雲     | 66 |
| 秋の山路(檢) | 67 |

(文)ハ文部省歌曲 (檢)ハ検定済歌曲 (認)ハ認可済歌曲

# 樂譜の見方

## 【一】 譜表(五線)の呼び方



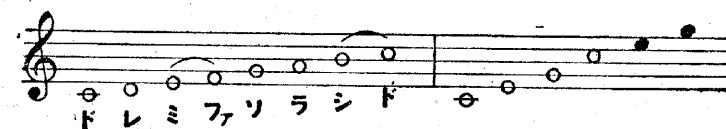
## 【二】 譜表の上に音名をきめる



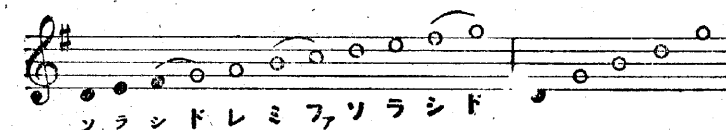
(譜表の始めの記號はト音記號といひとの音をきめる)

## 【三】 調子記號と下の位置

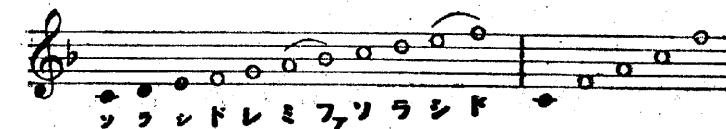
ハ調 (ハの音をドとする)



ト調 (トの音をドとする)



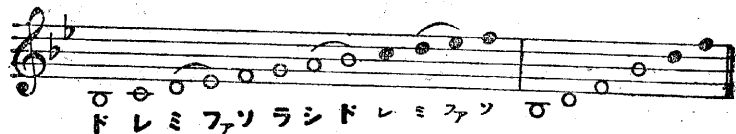
ヘ調 (ヘの音をドとする)



ニ調



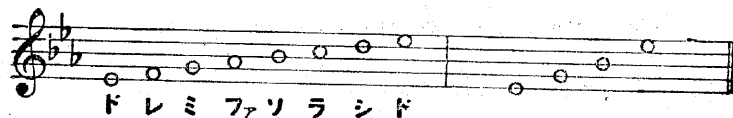
変ロ調



イ調



変ホ調



(ホ調)



#### 【四】 音符と休符の長さ

【音符】 音の長さを表はす記號を音符といふ。今その種類を書いて見よう。

○ 全 音 符 四拍の間音を延ばす。

♪ 二分 音 符 全 音 符 の  $\frac{1}{2}$ 、二拍

♩ 四分 音 符 全 音 符 の  $\frac{1}{4}$ 、一拍

♪ 八分 音 符 四分音符の  $\frac{1}{2}$ 、半拍

♫ 十六分 音 符 四分音符の  $\frac{1}{4}$ 、四半拍

【休符】 音の休む間を表したものを休符といふ。



【附點音符と附點休符】 音符の右に點のあるものを附點音符といつて、その音符の長さの半分を加へる。

○ = ○ + ♩ 附點全 音 符 (六拍)

♪ = ♩ + ♩ 附點二分 音 符 (三拍)

♩ = ♩ + ♩ 附點四分 音 符 (一拍半)

♫ = ♫ + ♫ 附點八分 音 符 ( $\frac{3}{4}$ 拍)

休符の場合も同じである。

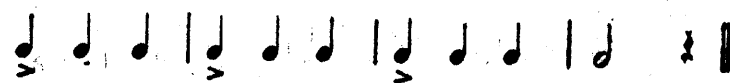
#### 【五】 拍 子

長短が規則的にくりかへされる時に拍子起る。拍子のはじめは常に音に勢ひがある。

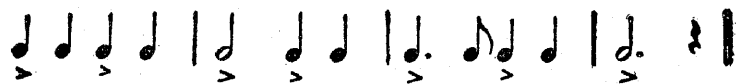
【二拍子】 二拍目毎に強聲の廻つて來るのを二拍子といふ。



【三拍子】 三拍目毎に強聲のかへつて來る拍子を三拍子といふ



【四拍子】 四拍子には三拍に中強聲がある。

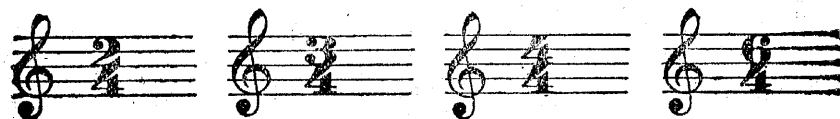


【六拍子】 六拍子は三拍に中強聲がある。



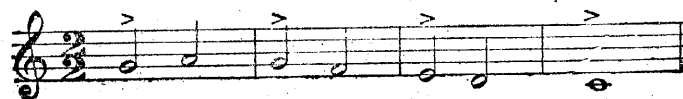
【拍子記號】 以上の様な四分音符一拍の場合はそれぞれ四分の二拍子、四分の三拍子、四分の四拍子、四分の六拍子とよぶ。

之を譜表に書くにはト音記號の次に數字を重ねて示して置く。



【その他の拍子と拍子記號】

#### 1. 二分の二拍子



#### 2. 八分の三拍子



#### 3. 八分の四拍子



#### 4. 八分の六拍子



數字の代りにある記號を用ひて拍子記號とすることがある。

$$\frac{4}{4} = \text{C}$$

$$\frac{2}{2} = \text{C}$$

【小節】 拍子を明瞭にする爲めに縦線を引き、縦線で區分されたものを小節といふ。

【六】 其の他の諸記號

*p* (ピアノ) — 弱

*f* (フォルテ) — 強

(ピアニッシモ) (ピアノ) (メゾピアノ) (メゾフォルテ) (フォルテ) (フォルテシモ)

*pp* — *p* — *mp* — *mf* — *f* — *ff*  
最弱 弱 中弱 中強 強 最強

◁ だんだん強く。 ▷ だんだん弱く。

||: :|| 此の間をくりかへす。

◡ (延長記號) 拍子をとめる。

*rit* (リターダンド) だんだんゆるく。

*♩ tempo* (アテンボ) もとの速さに。

— [終] —

# 君が代

調を込めて ♩=69

歌  
林 廣 守 曲



キミ ガー ヨーハ チヨニー ヤチヨニ



サザレ イシノ イハホト ナリテ



ヨケノ ムー スー マーデー

君が代は

君が代

千代に八千代に

さざれ石の

いはほとなりて

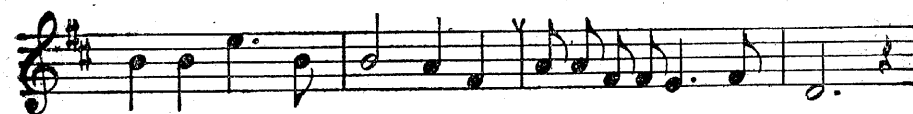
こけのむすまで

# 勅語奉答

中 村 秋 香 歌  
小 山 作 之 助 曲



アナタ フ ト シナ オホミコ ト



ミコト ノ ム ネヲ ココロニエリ テー



ツーユモ ソム カジ アサユフ ニー



アナタ フ ト シナ オホミコ トー

勅語奉答

あな た ふ と し な

大勅語

勅語の趣旨を

心に刻りて

露もそむかじ

朝夕に

あなたふとしな

大勅語

# 天 長 節

嬉しげに ♩ = 96

黒川眞緒 詞  
奥好 曲



ケ フ ノ 田 キ ヒ ハ オ ホ キ ミ ノー  
け ふ の よ き ひ は み ひ か り のー

ウ マ レ タ マ ヒ シ 田 キ ヒ ナ リ  
さ し で た ま ひ し よ き ひ な り

ヒ カ リ ア マ ネ キ キ ミ ガ ヨ ラ  
め ぐ み あ ま ね き き み が よ を

イ ハ ヘ モ ロ ビ ト モ ロ ト モ エ  
い は へ も ろ び と も ろ と も に

## 天 長 節

今日のよき日は 大君の  
生れ給ひし よき日なり  
今日のよき日は み光の  
さし出給ひし よき日なり  
光あまねき 君がよを  
祝へ諸人 もろ共に  
恵あまねき 君がよを  
祝へ諸人 もろ共に

# 明 治 節

堀江 周 安 歌  
杉 秀 曲

M.M. ♩ = 96



(一) { ア ジ ア ノ ヒ ガー シ ヒ イ ヅ ル ト コ ロ  
ア ルー キ ア メ ヅ チ ト ザ セ ル キ リ ラ

{ ヒ ジ リ ノ キ ミー ノ ア ラ ハ レ マ シ テ  
オ ホー ミ ヒ カ リ ニ ク マ ナ ク ハ ラ ヒ

ヲ シ ヘ ア マ ネー ク ミ チ ア キ ラ ケ ク

ヲ ナ メ タ マ ヘ ル ミ ヨ タ フ ト

## 明 治 節

一、  
聖の君の現れまして  
古き天地とさせる霧を  
大御光に照なくはらひ  
教あまねく道明らけく  
治め給へる御代尊  
恵の波は八洲に餘り  
御稜威の風は海原越えて  
神の依さる御業を弘め  
民の榮行く力を展はし  
外つ國々の史にも著く  
留め給へる御名長  
秋の空すみ菊の香高き  
今日のよき日を皆こほぎて  
定めましける御憲を崇め  
論しましける詔勅を守り  
代木森の代長へに  
仰ぎ奉らん大御

# 一月一日

千上 家 尊 眞 行 眞

♩=96

(一) トーシノ ハジメノ タメシト テー  
(二) はつひの ひーかり さしいでー

ヲ ハリ ナ キヨノ メデタ サヲー  
よ もに か がやく けさの そらー

マツ タケ ターテ テ カドゴ ト ニー  
きーみが みかげに たぐへ つつー

イ ハ フ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レー  
あ ふ ぎ み る こ そ た ふ と け れー

一月一日

一  
年の始の 例として  
終りなき世の 目出たさを  
松竹立てて 門ごとに  
祝ふ今日こそ 樂しけれ

二  
初日の光、さし出でて  
四方に輝く 今朝の空  
君が御影に 比へつつ  
仰ぎ見るこそ 尊とけれ

# 紀元節

温和に ♩=80

高崎正風 伊澤修二 曲

*mf*

(一) クーモニ ソビユル タカチホノ  
(四) そーらに かがやく ひのもとの

ターカネ オロシニ クサモキモ  
よろづの くーにに たぐひな

ナービキ フシケン オホミヨヲ  
くーにの みはしら たてしよを

*mf*

ア フ グ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ  
あ ふ ぐ け ふ こ そ た の し け れ

紀元節

一  
雲に聳ゆる 高千穂の  
高嶺下しに 草も木も  
靡き伏しけん 大御世を  
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

二  
海原なせる 埴安の  
池の面より なほ廣き  
恵の波に 浴みし代を  
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

三  
天つ日嗣の 高御座  
千代萬代に 動きなき  
基定めし そのかみを  
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

四  
空に輝く 日の本の  
萬の國に 類なき  
國の御柱 建てし世を  
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

# 金 剛 石

御典 好義 歌

♩-97

コンガウ セ キモ ミガカズ バ

タ マ ノ ヒカリ ハ ソハザラ ム

ヒ ト モ マ ナ ビ テ ノ チ ニ コ ソ

マ コ ト ノ ト ク ハ ア ラ ハ ル レ

ト ケ イ ノ ハ リ ノ タ エ マ ナ ク

メ グ ル ガ コ ト ク ト キ ノ マ ノ

ヒ ー カ ゲ ラ レ ミ ラ ハ ゲ ミ ナ バ

# 金 剛 石 (つづき)

イ カ ナ ル ヲ ザ カ ナ ラ ザ ラ ム

## 金 剛 石

金剛石もみがかずば

珠のひかりはそはざらむ

人もまなびて後にこそ

まことの徳はあらはるれ

時計の針のたえまなく

めぐるが如く ときのもの

日かげをしみて励みなば

如何なる業かならざらむ

# 螢の光



(一) ホタルノヒカリーマドノユーキー  
(二) とまるもゆくもかざりとて



フミヨムツキーヒカサネツツ  
かたみにあもふちよろづの



イツシカトシーモスギーノトラ  
こころのはしをひとごと



アケラヅケサハワカレユーク  
さきくとばかりうたふなり

一、螢の光窓の雪  
書よむ月日かさねつつ  
いつしか年もすぎのときを  
あけてぞ今朝は別れゆく  
とるも行くも限りとして  
かたみにあもふちよろづの  
心のはしを人ごとに  
幸くとばかりうたふなり  
つくしのきはみみちの奥  
海山とはくへだつとも  
その真心はへたてなく  
ひとつにつくせぬのため  
臺灣のはとも樺太も  
やしまのうちのまもりなり  
いたらん國にいさをしく  
つとめよわがせつづがなく

## 螢の光

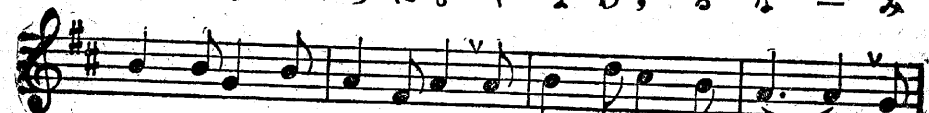
# 仰げば尊し



(一) アフゲバタフトシワガシノオンーヲ  
(二) たがひにむつみしひごろのふんわ



シヘノニハニモハヤイクトセーオ  
かるるのちにもやよわするなみ



モヘバイトトシコノトシツキーイ  
をたてなをあげやよはげめよ

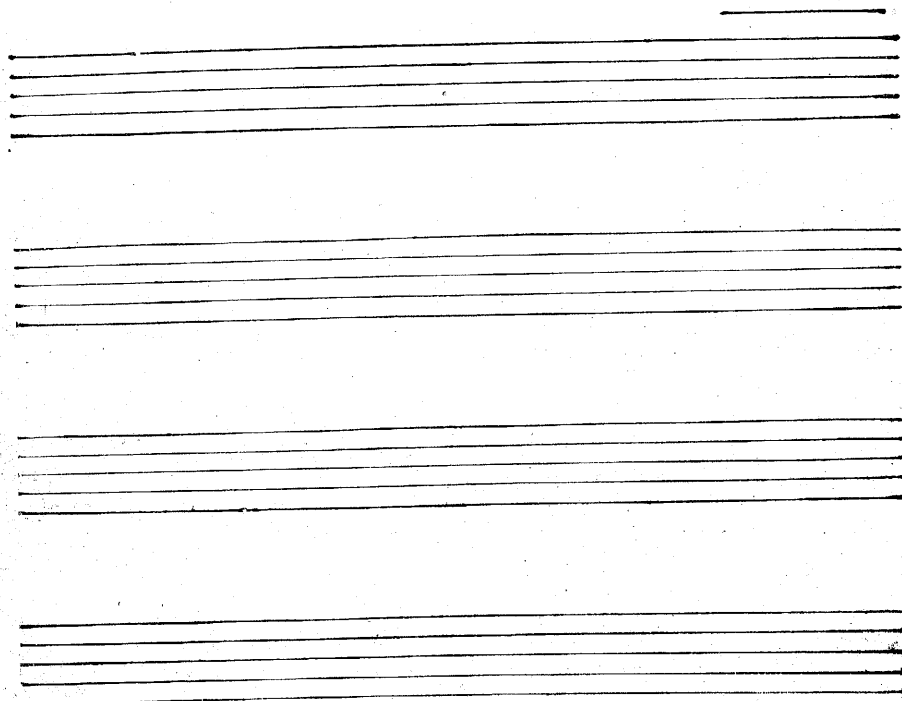


マコソワカレメイザサラバ  
まこそわかれめいざさらば

一 仰げば尊し我が師の恩  
教への庭にも早幾歳  
思へばいとこの年月  
今こそ別れめいざさらば  
二 互に睦みし日頃の恩  
別るゝ後にもやよ忘るな  
身を立て名をあげやよ勵めよ  
今こそ別れめいざさらば  
三 朝夕馴れにし學びの窓  
螢の灯つむ白雪  
忘るゝまどなきゆく年月  
今こそ別れめいざさらば

## 仰げば尊し

# 校歌



# 春の小川

♩ = 104

文 部 省 歌 曲



(一) ハー ル ノ ヲ ガ ハ ハ サ ラ サ ラ ナ ガ ル  
(二) はー る の を が は は さ ら さ ら な が る



キー シ ノ ス ミ レ ヤ レ ン ゲ ノ ハ ナ ニ  
えー び や め だ か や こ ぶ な の む れ に



ニー ホ ヒ メ デ タ ク イ ロ ウ ツ ク シ ク  
けー ふ も い ち に ち ひ な た に い で て



サー ケ ヨ ベ サ ケ ヨ ト サ サ ヤ ク ゴ ト ク  
あー そ べ あ そ べ と さ さ や く ご と く

## 春の小川

- 一 春の小川はさら／＼流る  
岸のすみれやれんげの花に  
にはひめでたく色美しく  
咲けよ咲けよとさ／＼やく如く
- 二 春の小川はさら／＼流る  
蝦やめだかや小鮒の群に  
今日も一日ひなたに出でて  
遊べ遊べとさ／＼やく如く
- 三 春の小川はさら／＼流る  
歌の上手よいとき子ども  
聲をそろへて小川の歌を  
うたへうたへとさ／＼やく如く

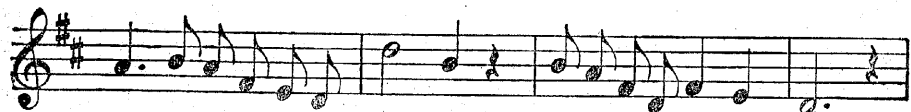
# 春 風

優美に ♩=88

加藤義清歌  
フオスター曲



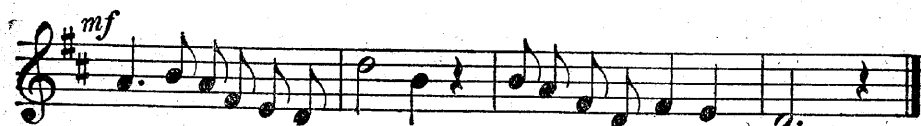
(一) フケソヨソヨ フケ ハルカゼ ヨ  
(二) やよふくなよ かせ このにはに



フケハルカゼ フケ ヤナギノイト ニ  
かせふくなよ かせ さくらのえだに



フケヨ フケ ハルカゼ ヨ  
ふくな かせ このにはに



ヤヨハルカゼ フケ ソヨソヨフケ ヨ  
やよふくなよ かせ ふくなよかせ よ

吹や吹櫻風こや  
くよくのふのよ  
な吹な枝く庭吹  
よく風になにく  
風なこの風なよ  
よ庭風

そや吹柳ふ春吹  
よよけのけ風け  
よ春よ糸春よ  
風吹に風よ  
吹ふけふけ  
けけ春け  
よ風よ

春 風

# 燕

吉丸一昌歌  
北村季晴詞



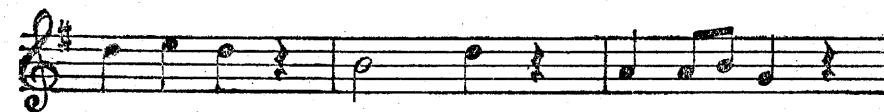
(一) ノ キニ スマクフ オヤーツバーメ  
(二) つ ばさ やすむる ひまもななく



アサカラ パンマデ エサートリ ユ  
いつしん ふらんにとびまはる



アメノ フルヒモ カゼフクヒニモ コユエニ  
おやの ころを こどもはしらす なぜに



マヨフ ニ シ ヒ ガーシ  
そいと な き さわぐ

泣な子親と一翼  
きぜ供のび心休  
さに は心ま不む  
わお知をは亂る  
ぐそらるに暇  
いと

西に子風雨餌朝軒  
東ゆ吹のとかに  
えく降りから巢  
に日るに晩を  
まに日まを  
よももでふ  
ふ 親燕

燕

# 藤の花

文 部 省 歌 曲

$\text{♩} = 104$

(一) ノ ヤ マ モ カ ス ム ハ ル サ メ ノ  
(二) ひ ば り の こ ゑ は ゆ ふ ぞ ら に

ハ レ テ ナ ゴ リ ノ ミ ズ カ サ ニ  
き え て こ な た の や ぶ は た や

ク ル マ ノ ソ シ ヤ フ デ ノ ハ ナ  
ほ む ぎ に と ど く ふ ち の は な

シ ブ キ ニ ヌ レ テ ヒ ニ ハ ユ ル  
し づ か に ゆ れ て ひ は く る る

野山もかすむ春雨の  
霧れてなごりの  
「水嵩に車はげしや藤の花」  
しぶきに濡れて日に映ゆる  
雲雀の聲は夕空に  
消えて 此方の  
「藪鳥や穂麥にとどく藤の花」  
しづかに揺れて日は暮るゝ



藤の花

# 山の馬車

鹿 島 鳴 秋 歌  
草 川 信 曲

*mf* 稍遅く、のんびりと

(一) フ デ ガ サ キ マ ス ヤ マー フ デ ガ  
(二) ふ ち が さ き ま す や まー ふ ち が

*poco rit a tempo*

サ カ ハ ダ ラ ダ ラ ヒ ハ ナ ガー イ  
た に の う ぐ ひ す か ほ だ し て

*mf*

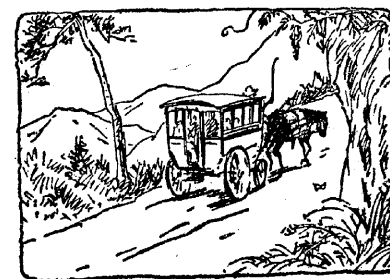
五 グ ッ ツ ノ ヤ マー ミ チ ハー  
ば しゃ の お き ゃ く が と ほ り ま す

*p* *mf* *rit*

ブ ン ブ ン ア ブ ヤ ラ テー テ ッ ヤ ラ  
あー ぶ や てー て の ひ な が ざ か

藤が咲きます山藤が  
坂はだら／＼日は永い  
五月 四月の山路は  
ぶん／＼蛇やら蝶々やら  
藤が咲きます山藤が  
谷のうぐひす顔だして  
馬車のお客がとほります  
蛇や蝶々の日永坂

山の馬車



蠶

文 部 省 歌 曲

$\text{♩} = 112$   
 $mf$

(一) カゼア タ タ カキ ゴグツ—ノ— ハジメ  
 (二) よたびのねむり いつし—か— すぎて

サ ト ノ フ ト メ ガ ト ル ヤ ハ バ ウ キ  
 は し の ふ と さ は こ ゆ び と な り ぬ

$f$

ハ キ オ ロ— シ タ—ル ハ ル ノ カ ヒ コ  
 き そ ひ き— そ ひ—て く は は む お と

$mf$

サ ナ—ガ ラ ク ロ—キ チ—リ ノ— ゴ ト ク  
 こ の—は に あ め—の そ—そ—ぐ— ご と く

- 蠶
- 一 風暖き五月のはじめ  
 里の少女が執るや羽簀  
 掃きおろしたる春のかひこ  
 さながら黒き塵の如く
- 二 四度の眠いつしか過ぎて  
 箸の太さは小指となりぬ  
 きそひきそひて桑はむ音  
 木の葉に雨のそとぐ如く
- 三 髪も結はず夜さへ寝ねす  
 心つくして一月あまり  
 努めしかひの見えたる今日  
 うれしや繭は山の如く

風 鈴

おだやかに  $\text{♩} = 69$   
 (やはらかに・聲低く)

川 路 柳 虹 歌  
 山 田 耕 作 監

$mf$   $p$

(一) フ、リ ン チ リ チ リ ナ リ マ シ タ  
 (二) ふ、り ん ち り ち り な り ま し た  
 (三) ユ メ ノ ナ カ デ モ カゼ フ イ テ

$pp$   $p$  (沖へるやうに)

ア カ チ ャ ン ス—ヤ—ス ヤ ネ マ シ—タ ヨ  
 あ か ちゃん に—つ こ と わ ら ひ—ま す  
 フ ウ リ ン チ—リ—チ リ ナ ッ タ—デ セ、

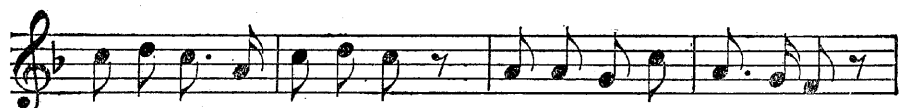
- 風 鈴
- 一 風鈴 ちりちり 鳴りました  
 赤ちゃん すやすや 睡ましたよ
- 二 風鈴 ちりちり 鳴りました  
 赤ちゃん につこと 笑ひます
- 三 夢のなかでも 風吹いて  
 風鈴 ちりちり 鳴つたでせう

# 田舎の四季

文部省歌曲



(一) ミチヲ ハ サンデ ハタイチメ シニ  
(二) ならぶ す げがさ すずしい こゑで



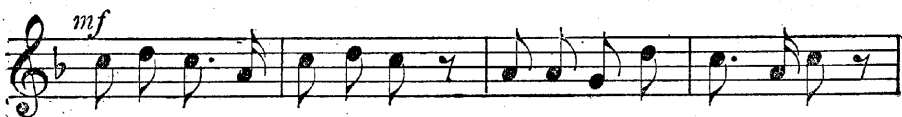
ムギハ ホガデル ナハハナザカリ  
うたひ ながらに うゑゆく さなへ



ネー ムル テフテフ ト ビタツ ヒバリ  
な が い なつ の ひ い つしか く れて



フー クヤ ハルカゼ タ モトモ カルク  
う ゑ る てさき に つ きかげ う ごく



ア チラ コチ ラニ クハツム ラ トメ  
か へ る みちみち あと みか へ れば



ヒ マシ ヒ マシニ ハルゴモ フ トル  
は ず る は ず る に よつゆ が ひ かる

## 田舎の四季

一  
道を はさんで 畠一面に  
麦は穂が出る 菜は花盛り  
眠る蝶々 とび立つひばり  
吹くや春風 たもとも軽く  
あちらこちらに 桑つむ少女  
日まし にはるごも太る

二  
ならば菅笠 涼しいこゑで  
歌ひながらに 植行く早苗  
永い夏の日 いつしか暮れて  
うゑる手先に 月かけ動く  
かへる道々 あと見かへれば  
葉末々に 夜つゆが光る

三  
二百十日も 事なくすんで  
村の祭の 太鼓がひびく  
稲は實がいる 日和はつゞく  
刈つてひろげて 日に乾かして  
米にこなして 俵につめて  
家内そろつて 笑顔に笑顔

四  
松を火にたく ゐろりの側で  
夜はよもやま 話がはづむ  
母がてぎはの 大根膾  
これが田舎の 年越さかな  
棚の餅ひく 鼠の音も  
更けて軒端に 雪降積る

# 曾我兄弟

文 部 省 歌 曲



(一) フ ジ ノ ス ソ ノ ヨ ハ フ ケ テ  
(二) き た れ と き む ね こ ひ こ そ  
(三) ト モ ニ タ イ マ ツ フ カ ザ シ  
(四) あ き よ す け つ ね ち の あ だ  
(五) ア ダ ハ ク イ ヌ イ マ ハ ト テ



ウ タ ゲ ノ ド ヨ 一 ミ シ ズ マ リ ヌ  
ジ ふ ー は ち ね ん の う ら み を ば  
メ ザ ー ス ヤ カ タ ニ ウ レ バ  
ジ ふ ら う ご ら ー う げ ン と  
デ ア ー ヘ デ ア ヘ ト ヨ バ



ヤ カ 一 タ ヤ カ タ ヒ キ エ テ  
い で ー や あ に う こ ひ シ テ  
カ タ ー キ ク に へ エ フ シ デ  
ま く ー ら を ド お か カ  
ラ シ モ コ サ メ フ イ デ



ア ヤ メ モ ワ カ 一 ヌ サ ツ キ ヤ ミ  
た だ ひ と う ち ー か か た い を ば  
ぜ ん ゴ モ シ ラ す ー タ は と き る  
あ き ニ モ ナ ノ ル ホ ト ト ギ ス

## 曾 我 兄 弟

一 富士の裾野の夜は更けて  
うたげのどよみ静まりぬ

館館の灯は消えて  
あやめもわかぬ五月暗

二 來れ時宗今宵こそ

十八年の恨をば

出や兄上今宵こそ  
只一討に仇をば

三 共に松明ふりかざし  
目ざす館に討入れば

敵工藤は酔ひ伏して  
前後も知らぬ高軒

四 起きよ祐經父の仇

十郎五郎見参と

枕を蹴つて驚ろかし  
起きんとするをはたと斬る

五 仇は報いぬ今はとて

出合出合と呼ばはれば  
折しも小雨降り出でて  
空にも名のる時鳥

# 柳のぶらんこ

葛原 幽 歌  
小松 耕 輔 曲

$\text{♩} = 126$

*p*

(一) イチノエダ ニノエダ サンノエダ

ヤ ナギ ノ エダ ノ プ ラン コ

*mf*

ユーラリ ユーラリ ユーラリ コ

プラン コ ミツ ツ ガ ユ ラ リ コ

- 柳のぶらんこ
- 一 一の枝二の枝三の枝  
柳の枝のブーランコ  
ゆーらりゆーらりゆーらりこ  
ブーランコ三つがゆーらりこ
- 二 乗手はゐないでゆーらりこ  
柳のブーランコゆーらりこ  
三つが三つともゆーらりこ  
面白さうにゆーらりこ
- 三 乗手は小さな風の子  
あんまり小さくて見えない子  
つかまり上手で漕ぎ上手  
一度も落ちない乗り上手

# 漁 船

文 部 省 歌 曲

$\text{♩} = 76$

(一) エンヤラ エンヤラ ロ ビ ャ ウ シ ソ ロ ヘ テ  
(二) ゆ ら り や ゆ ら り と な み ま に ゆ ら れ て

ア サ ヒ ノ ミ ナ ト フ コ ギ ダ ス レ フ セ ン  
い そ に は あ み ぶ ね お き に は つ り ぶ ね

ミ ヨ ミ ヨ ア ノ ク モ ケ フ コ ソ タ イ レ フ  
み よ み よ あ れ み よ か か る わ と れ る わ

ソ レ コ ゲ モ ソ レ コ ゲ モ オ サ モ カ デ ト リ カ チ  
あ み に い と に さ か な の か す か す

- 漁 船
- 一 えんやらえんやら 船拍子そろへて  
朝日の港を 漕ぎ出す漁船  
見よくあの雲今日こそ大れふ  
それ漕げそれこげ おも舵とり舵
- 二 ゆらりやゆらりと 浪間に揺られて  
磯には網船 沖には釣船  
見よくあれ見よ かゝるわ捕れるわ  
網にも絲にも 魚のかすく
- 三 えんやらえんやら 獲物に勇んで  
入日の沖をば 急いで漕ぐ船  
見よく濱邊に 妻子が迎へる  
それ漕げ漕げよや 船拍子早めて

# 海 の 世 界

桑 田 春 風 歌  
納 所 辨 次 郎 曲

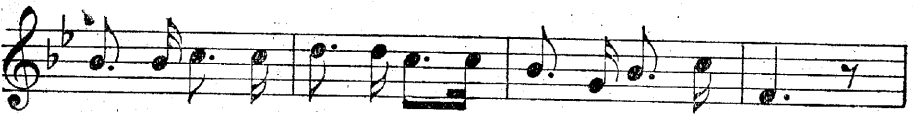
爽快に ♩=112



(一) チ ヒ ロ ノ ウ ミ ノ ー ソ ノ ソ コ ニ  
(二) み づ に う ま れ て ー み づ に す む



タ カ キ ー ヤ マ ア リ タ ニ モ ア リ  
あ ま た の う を や ー け も の な ど



イ ト メ ズ ラ シ キ ー ク サ ヤ キ ノ  
こ こ に ー か し こ に あ そ ぶ な る



ハ ナ ウ ル ハ シ キ ー ソ ノ モ ア リ  
う み の ー せ か い ぞ お も し ろ き

四 海は寶の庫なれや  
深くも廣き其の庫の  
寶探りて諸共に  
御國の富を作らん

三 たいまい珊瑚礁眞珠  
世の人々のもて囃す  
貴とき玉の数々も  
皆海よりぞ得られける

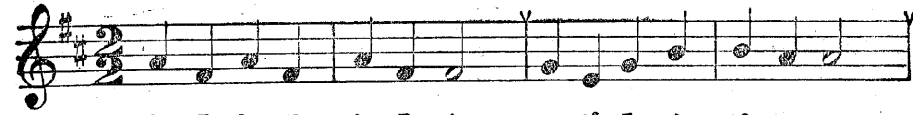
二 水に生れて水に住む  
數多の魚や獸など  
ここに彼處に遊ぶなる  
海の世界ぞ面白き

一 千尋の海の其の底に  
高き山あり谷もあり  
いと珍らしき草や木の  
花麗はしき園もあり

## 海の世界

# ひ ま は り

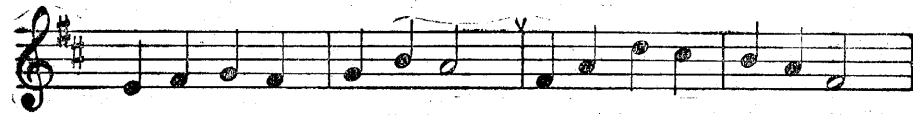
葛 原 し げ る 歌  
梁 田 貞 曲



(一) キ ラ キ ラ キ ラ ト ヒ ガ テ リ ダ セ バ  
(二) キ ラ キ ラ キ ラ と ひ が て り だ セ バ



ニ コ ニ コ ニ コ ト ヒ マ ハ リ ガ  
ナ ヨ ナ ヨ ナ ヨ と く さ も き も



オ ホ キ ナ ハ ナ ラ ヨ ロ コ ブ ヤ ウ ニ  
し ほ れ る ほ ど の あ つ さ の ひ で も



ヒ ガ シ ノ ハ ウ ヘ ム ケ テ キ ル  
げ ん き な は な の ひ ま は り よ

二 向日葵が  
大きな花を  
よろこぶやうに  
東の方へ向けてゐる

一 向日葵が  
日向を照りだせば  
ニコニコと  
キラキラと  
日が照りだせば  
キラキラと  
草も木も  
しほれるほどの  
暑さの日でも  
元氣な花の向日葵よ

## 向日葵

# 近江八景



(一) ミキデラノカネノネ スミワタルユフグ  
(二) いま、なほみにしむ あわづののあきか  
(三) ツキノカゲサヤカニ スミノボルイシヤ



レ ハツカリモカタダニ コエ  
せ いづか たぞむ かし の かね  
マ テヨカ ケテシ ノブ ハ ムラ



タ テ オ チ キ ス ヒ ト リ タ テ  
ひ ら の い し ぶ み せ た の ゆ ふ  
サ キ ノ ソ ノ フ デ ヤ マ ダ ヤ バ



ル カ ラ サ キ ノ オ イ マ ツ ア メ  
ひ ど こ し へ に さ び し く ひ ら  
セ ミ エ ワ タ ル ナ ド コ ロ サ シ



カ ナ ミ カ サ ビ シ グ ニ ヒ ビ シ ハ  
の ぼ せ つ い つ み て も う つ く し  
テ カ ヘ ル フ ネ ノ ホ モ ミ ツ ヨ ツ

# 近江八景

一 三井寺のかねの音 すみ渡る夕ぐれ

はつ雁も堅田に 聲たて、落ち来ぬ

ひとり立てる 唐崎の老松

雨か波か 淋しげに響くは

二 今もなほ身にしむ 粟津野のあき風

いづかたぞ昔の 兼平のいしぶみ

瀬田の夕日 こそしへにさびしく

比良の暮雪 いつみても美し

三 月のかげさやかに すみのぼる石山

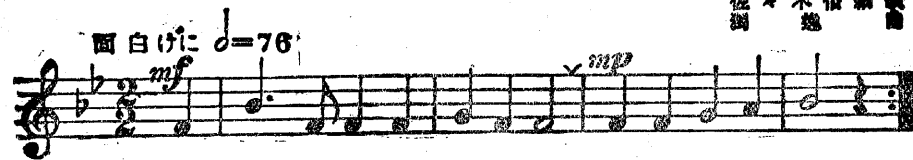
千代かけてしのぶは 紫のその筆

やまだ矢走 みえ渡る名どころ

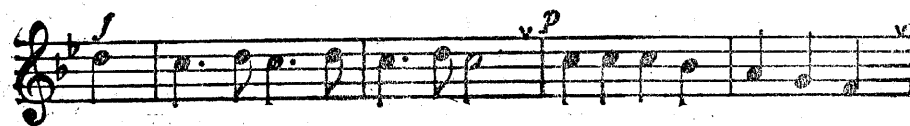
舟の帆も三つ四つ

# 山 登 り

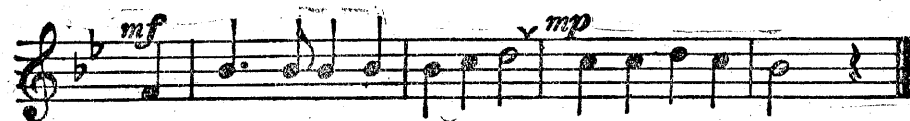
佐々木信綱 歌  
詞 堀 雄 二



(一) オ モ シ ロ イ ケ フ ノ ヤ マ ノ ボ リ  
ノ ボ リ ユ ク ミ チ ノ リ ユ ガ ハ ニ  
(二) な ら び た つ を か は に し き さ て  
ふ も と ゆ く か は は ぎ ん の お び



マ ツ ガ エ ハ ミ ド リ モ ミ デ ハ チ シ ホ  
た も は た も も り も ひ と め に み え て



オ モ シ ロ イ ア キ ノ ヤ マ ノ ボ リ  
お も し ろ い あ さ の や ま の ぼ り

## 山 登 り



一 面白い今日の山登り

登り行く道の両側に

松が枝は緑 紅葉は血潮

面白い秋の山登り

二 並び立つ丘は錦着て

麓ゆく川は銀の帯

田も畑も森も一目に見えて

面白い秋の山登り

# 廣 瀬 中 佐

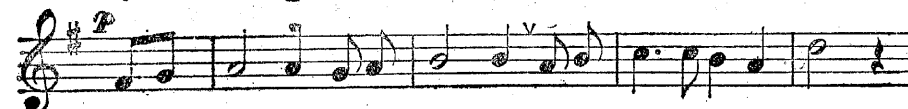
文 部 省 歌 曲



(一) ト ド ロ ク ツ ツ オ ト ト ビ ク ル ダ ン グ ヲ  
(二) せん ない く ま な く た づ め る み た び



ア ラ ナ ミ ア ー ラ フ デ ツ キ ノ ウ ヘ ニ  
よ ー ベ ど こ た ヘ す さ が せ ど み え す



ヤ ー ミ フ ツ ラ ス ク チ ュ ウ サ ノ サ ケ ビ  
ふ ー ね は し だ い に な み ま に し づ み



ス ギ ノ ハ イ ズ コ ー ス ギ ノ ハ キ ズ ヤ  
て き だ はん い よ い よ あ た り に し げ や し

## 廣 瀬 中 佐

一 轟く砲音飛來る彈丸

荒波洗ふデツキの上に

闇を貫く中佐の叫

杉野は何處杉野は居すや

二 船内隈なく尋ねる三度

呼べど答へずさがせど見えす

船は次第に波間に沈み

敵弾愈々あたりにしげし

三 今とはボートにうつれる中佐

飛來る彈丸に忽ち失せて

旅順港外恨みぞ深き

軍神廣瀬と其の名残れど

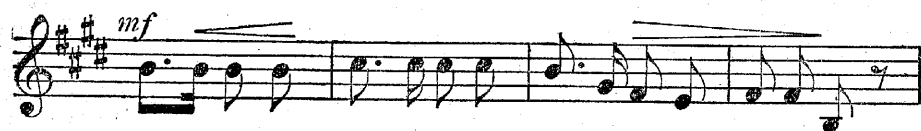
# 虫の楽隊

爽快に ♩ = 104

桑田 春風 歌曲  
田村 虎藏 曲



(一) チグサー ヤチーグサ ミダーレ サキテ  
(二) すずむしまつーむし くつーわ むしや



ハーナヲ シトネノ ユメオモ シロト  
こほろぎ うまおひ かねつき むしの



オノヅカ ラナルー ムシ ノ コエ ゴエ  
ふーしも さまざま うたにはやしに



チンチロリン チンチロリン スキッチョ スキッチョ  
ちんちろりん ちんちろりん すゐっちゃ すゐっちゃ



ガチャガチャ ガチャガチャ ガチャガチャ ガチャガチャ ツキアル ヨハハ  
がちゃがちゃ がちゃがちゃ がちゃがちゃ がちゃがちゃ かせなき よはは

# 虫の楽隊 (つゞき)



ア キ ノ ノ モ セ ノ ガ ク タイ ラ カ シ  
あ き の の も せ の が く たい を か し

秋の野もせの 月ある夜半は 風なき夜半は 楽隊をかし  
ガチャ ガチャ スキッチョ スキッチョ  
チンチロリン チンチロリン  
花を<sup>しと</sup>梅の 千草 八千草 乱れ咲きて  
自らなる 夢面白と  
虫の聲々 蠅 蜂 馬追 鈴虫 松虫  
スキッチョ スキッチョ

秋の野もせの 風なき夜半は 楽隊をかし  
ガチャ ガチャ スキッチョ スキッチョ  
チンチロリン チンチロリン  
節もさまざま 蠅 蜂 馬追 鈴虫 松虫  
歌に<sup>か</sup>鐘<sup>つ</sup>撞<sup>つ</sup>虫<sup>むし</sup>や  
子<sup>し</sup>に 蠅 蜂 馬追 鈴虫 松虫  
スキッチョ スキッチョ

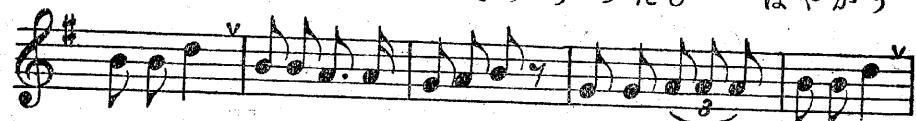
## 虫の楽隊

# たけがり

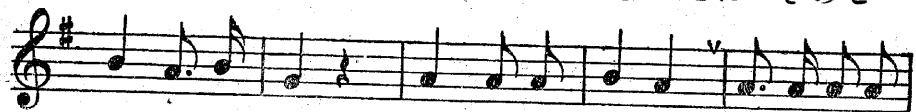
文 部 省 歌 曲



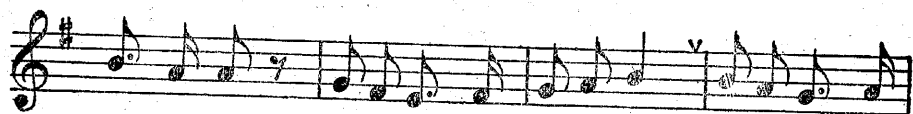
ア キ ノ ヒ ノ ソ ラ ス ミ フ タ リ カ ゼ ア タ  
た どり ゆ く ほ そ み ち づ た ひ は や か う



タ カ ニ サ テ モ ヨ キ ヒ ヤ ヤ マ ア ソ ビ ス ル ニ  
ば し く き の こ に ほ へ り や ま か せ に き の こ



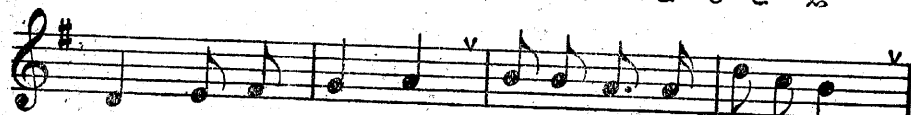
ヨ キ ヒ ヤ ト モ ヨ コ ヨ テ カ ゴ ラ  
か を れ り う れ し こ の ま つ の ね



モ チ テ イ ザ ウ ラ ヤ マ ニ キ ノ コ タ  
も と に ま づ み つ け つ と た か く よ



ヅ ネ ン ヤ マ フ カ タ ユ キ テ タ ヅ ネ ン  
ぶ こ る や ま び こ に ひ び く よ び こ る

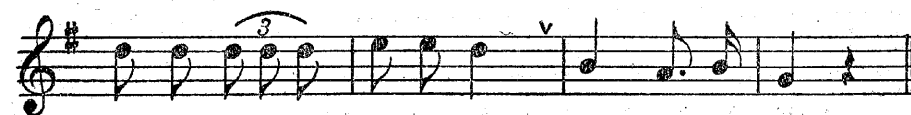


イ デ ヤ ア ノ イ ハ ノ コ カ ゲ ニ

# たけがり (つゞき)



ミ ナ ウ チ ヨ リ テ エ モ ノ カ ゴ ヘ ン



タ ケ ガ リ ノ イ サ ラ ク ラ ベ ン

## たけがり

秋の日の空すみわたり  
風暖にさてもよき日や  
山遊びするによき日や  
友よ來よ手かごを持ちて  
いざ裏山にきのこたづねん  
山深く行きてたづねん  
たどり行く細路づたひ  
はやかうはしくきのこにほへり  
うれしこの松の根もとに  
まづ見つけつと高く呼ぶ聲  
やまびこにひびく呼聲  
いでやあの岩の小かげに  
皆うちよりてえもの數へん  
茸狩のいさをくらべん

# 村の鍛冶屋

文部省歌曲



(一) シバシモ ヤマズニ ツチウツ ヒビーキ  
(二) あるじは なだかき いつこく おやーぢ



トビチル ヒノハナ ハシル ユダーマ  
はやおき はやねの やまひ しらーず



フイーゴノ カゼーサヘ イキヲモ ツーガーズ  
てつーより かたーしと ほこれる うーでーに



シゴトニ セイダス ム ラノ カヂーヤ  
まさりて かたきは か れが こころ

四 三 二 一  
榎うつ響にまして高し  
名物鍛冶屋は日々に繁昌  
稼ぐに追ひつく貧乏なくて  
日毎に戦ふ懶惰の敵と  
平和の打物休まずうちて  
馬鋏に作鋏鋤よ鈍よ  
刀はうたねど大鎌小鎌  
勝りて堅きは彼が心  
鐵より堅しと誇れる腕に  
早起早寝の病知らず  
主は名高き一こく老爺  
仕事に精出す村の鍛冶屋  
飛び散る火の花走る湯玉  
襦の風さへ息をもつがす  
仕事に精出す村の鍛冶屋  
暫時もやまずに榎うつ響  
飛び散る火の花走る湯玉

## 村の鍛冶屋

# りんご子供

葛原しげる歌  
弘田龍太郎曲



(一) ヤホーヤノ オミセデ ソトーミテ ル  
(二) やほーやの おみせを みてーとほ る



リンゴノ コドモガ ソトーミテ ル  
りんごを みんなが みてーとほ る



アカイホッパ ナラベテナラベテ  
あかいほっを ならべてならべて

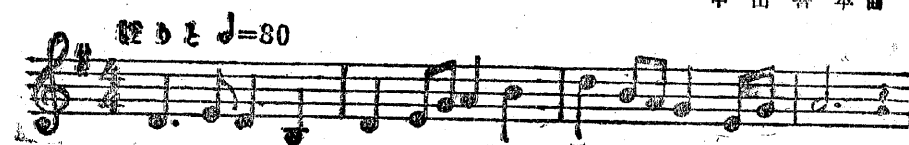


マルイオカホヲ ナラベテナラベテ  
まるいおかほを ならべてならべて

リンゴと子供  
八百屋のお店で  
外見てる  
林檎の子供が  
外見てる  
赤い頬を  
ならべてならべて  
まるい顔を  
ならべてならべて  
まるい顔を  
ならべてならべて  
八百屋のお店を  
見とほる  
林檎を皆が  
見とほる  
赤い頬を  
ならべてならべて  
まるい顔を  
ならべてならべて

# 茅刈

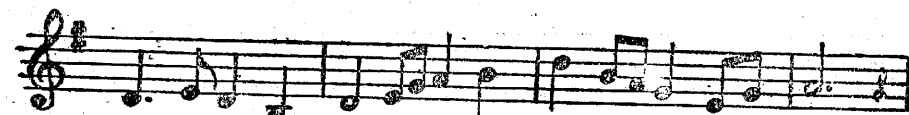
富原義徳  
中山晋平 作曲



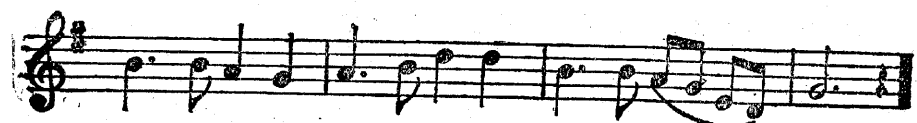
(一) カヤカリ カヤーノノ カヤーノ ホーニ  
(二) かやかり あうーまも さむーか ろーと



キラキラ ツメタイ アサヅーキ ヨ  
うーまにいたくひよ かやのーは ら



(三) カヤカリ カヤーノノ カヤーノ ホーガ



サ ラサラ ナ ビイチャ ア サヅーキー

茅刈  
一 かやかり茅野の茅の穂に  
さらさら冷たい朝月夜  
二 かやかりあ馬も寒かろと  
馬にたく火よ茅野原  
三 かやかりかや野の茅の穂が  
さら／＼なびいちや朝月夜

# 山里

大和田建樹  
リヤニ 作曲



(一) ハーラー ハ ラ チーリー クルイテ フノ オチ  
(二) のーこー れる かーきーの みこす るにいつ



バ ヒ ロ ヒ テコド モハホン ニゾ ハサ  
つ み つ けて とび くる から す の こ る



ム ウー ツー ク シ ター ノー シ  
も くー れー が た さー びー し

山里  
一 本は拾ひ公いは  
にひ孫てら  
ぞて樹の  
挿子供の  
む供は落葉  
美しは葉  
し樂し  
二 鳥見梢残  
のつにれ  
聲け五る  
暮てつ柿  
れ飛の  
方び  
淋くる  
しる

# 雪 合 戦

文 部 省 歌 曲

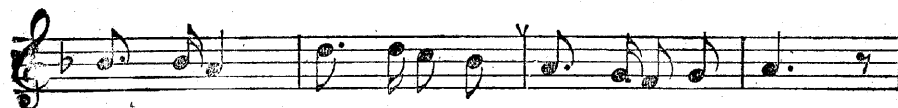
♩=76



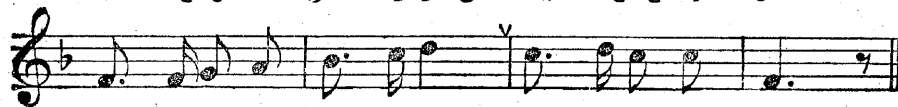
(一) ハ レ タ ル アーサーノ ユキ ノ ハ ラ  
(二) あ た り て ひーるーむ ひけ ふ も の



ヒ ガ シ ト ニーシーニ タチ ワ カ レ  
お それ す すーすーむ がう の も の



ウイ ハ ジメノ コ エノシ タ  
ゆ きを け ちらし ゆ きを あ び



テ ニテ ニ ト バス ユ キツ ブ テ  
た が ひ に よ す る て き み か た

## 雪 合 戦

(一)

晴れたる朝の雪の原  
東と西にたちわかれ  
「用意はじめ」の聲のした  
手に手にとばす雪つぶて。

(二)

あたりて怯む卑怯者  
怖れず進む剛の者  
雪をけ散らし雪をあび  
互に寄する敵味方。

(三)

激戦いまとみるうちに  
後に響く休戦の  
ラッパと共に西東  
一度にどつとどつと。

# 北 國 の 雪

大和田 建樹 歌  
フォスター 曲

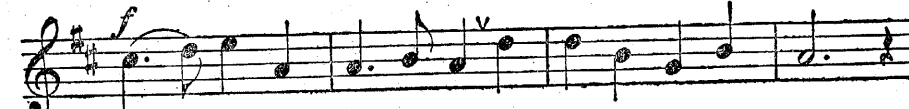
稍 淋しげに ♩=108



(一) シ モーツー キハヤク フリソメ テ  
(二) き のーふー もけふも やむまな く



ヤ ヨーヒー ノヒニモ キ エーヤラ ヌ  
つ もーれー るうへに ふ りーつ み て



ユーキヲ トモニト シノナカ バ  
やーま も か は も も りも み ち も



コ シーデー ノフユ ノ イトーナ ガ キ  
さ かーひー は み え す た ひーら か に

## 北 國 の 雪

一

霜月早く降り初めて  
彌生の日にも消えやらぬ  
雪を友に年の半ば  
越路の冬のいと長き

二

昨日も今日も止む間なく  
積れる上に降り積みて  
山も川も森も道も  
堺は見えず平らかに

三

軒端は雪に埋もれて  
書讀む窓もほの暗く  
隣りどちの往来さへも  
僅に辿る庇道

四

卯月の日影照り添ひて  
何時しか雪も融け出でつ  
鳥の聲も嬉しげにて  
一時に笑ふ梅櫻

# 川 中 島

新選國民唱歌



(一) サ イ ジ ャ ウ    サ ン ハ ー    キ リ フ カ ク  
(二) く る ー ま    が か り の    じ ん ぞ な    へ



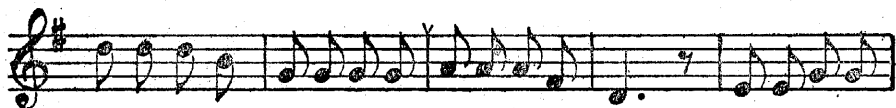
チ ク マ ノ    カ ハ ハ ー    ナ ミ ア ラ    シ  
め ぐ ー る    あ ひ づ の    と き の こ    ゑ



ハ ル カ ニ    キ コ ユ ル    モ ノ オ ト    ハ  
あ は せ る    か ひ も ー    あ ら し ふ    く



サ カ マ ク    ミ ツ カ ー    ツ ハ モ ノ    カ  
て き ー を    こ の は と    か き み だ す



ノ ボ ー ル    ア サ ヒ ニ    ハ タ ノ テ    ノ    キ ラ メ ク  
か は な か    じ ま の ー    た た か ひ    は    か た る も



ヒ マ ニ    ク ル ク ル    ク ル ー  
き く も ..... い さ ま し や

# 川 中 島

西 條 山 は 霧 深 く  
築 摩 の 川 は 波 荒 し  
遙 に 聞 ゆ る も の 音 は  
逆 卷 く 水 か 武 者 か  
登 る 旭 に 旗 の 手 の  
輝 め く ひ ま に く る く る

二 車 が か り の 陣 ぞ な へ  
廻 る 合 圖 の 関 の 聲  
合 せ る 貝 も 嵐 吹 く  
川 中 島 の 戦 は  
語 る も 聞 く も 勇 ま し や

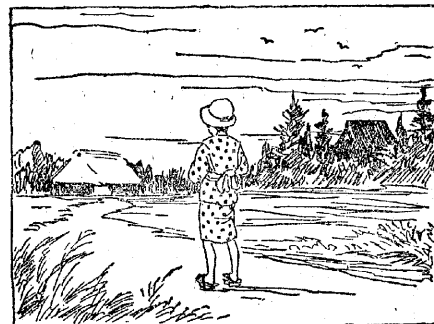
# 楽しいお家

葛 原 満  
梁 田 貞  
歌 曲

チンジュノ モリニ ヒガオチ テ  
カラスハ オヤマノ スニカヘ ル  
ワタシモ オウチヘ カヘリマ セウ  
ノミチガ クラク ナラヌマ ニ  
タノシイ オウチヘ カヘリマ セウ

鎮守の森に日が落ちて  
鳥はお山の巣にかへる  
私もお家へかへりませう  
野路がくらくならぬまに  
楽しいお家へかへりませう

## 楽しいお家



# 昇る 旭

(一) ヒガ シノ ミソ ラニ カガ ヤ キノ ボ ル  
(二) さくらの こずゑに かが やき わた る  
(三) スキ テン バン リノウ ナ パラ テラ ス  
アサ ヒノ ハタ コソ セカ イヲ テラ ス  
あさ ひの はた こそ ちきゅう に しめ す  
アサ ヒノ ハタ コソ シカ イニ タカ キ  
ワガ ヒ ノ モー ト ノ ハ テ ナ キ ヒ カ リ  
わが お ほ きー み の み い つ の し る し  
ワガ ク ニ ター ミ ノ ホ マ レ ノ サ カ エ

一 東のみに空に輝きのぼる  
旭の旗こそ世界を照らす  
わが日の本の涯なき光  
二 櫻の梢に輝きわたる  
旭の旗こそ地球にしめす  
わが大君の御稜威のしるし  
三 水天萬里の海原てらす  
旭の旗こそ四海に高き  
わが國民のほまれの榮

## 昇る 旭

# 八 幡 太 郎

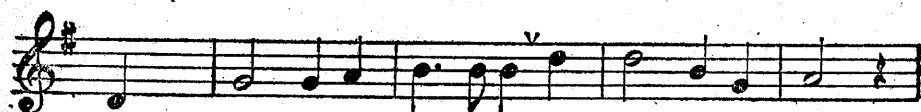
文 部 省 歌 曲



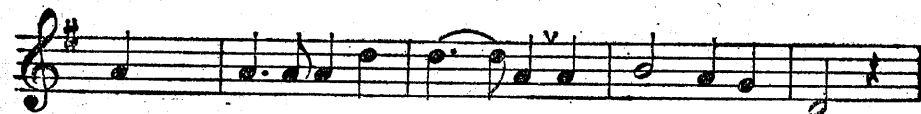
(一) コ マーノヒ ツメモニ ホフマデ  
(二) お ちゆくて きーをよ びとめて



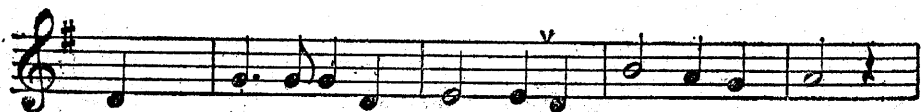
ミ チーモセ ニチルヤマザクラカナ  
こ ろものた てーはほこ ろびにけり



シ バシナガメテフ クカゼヲ  
て きはみ かへりと しをへし



ナ コソノセ キートオ モヘドモ  
い とーのみ だれのく るしさに



カ ヒナキナ ヤトホ ホエミテ  
つ けたるこ とのめ でたきに

# 八 幡 太 郎 (つゞき)



ユ ル ク ウ タ セシヤ サ シサ ヨ  
め で て ゆ る せしや さ しさ よ

## 八 幡 太 郎

一

駒の蹄も にほふまで 道もせに散る 山櫻かな  
暫し眺めて 吹く風を 勿來なこその關せきと 思へども  
甲斐なき名やと 微笑ほほえみみて ゆるくうたせし 優しさよ

二

落ち行く敵を 呼び止めて 衣のたては 綻びにけり  
敵は見返り 年を経し 糸の亂れの 苦しさに  
つけたることの 目出度きに 愛めでて許せし 優しさよ

# 二宮尊徳

快活に ♩=100

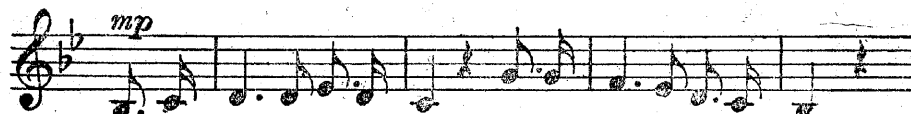
桑田 春風 歌  
田村 虎藏 曲



(一) ア シ タ ニ オ キ テ ヤ マ ニ シ バ カ リ  
(二) き ん け ん り く こ う の う り を さ と り



ワ ラ デ ツ ク リ テ ヨ ハ フ ク ル マ デ  
よ に ほ う と く の を し へ を つ た へ



ミ チ ュ ク ヒ マ モ シ ヲ バ ハ ナ タ ズ  
あ れ ち ひ ら き て た み を す く ひ し



ア ハ レ イ チ ラ シ コ ノ コ タ ガ コ ゾ  
い さ を の あ と ぞ に の み や じ ん じ や

## 二宮尊徳

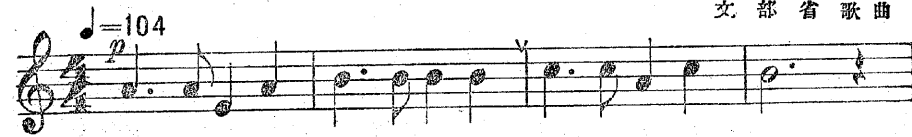


一 あしたに起きて 山に柴刈り  
草鞋作りて 夜は更くるまで  
路行くひまも 書をば放たず  
あはれいちらし 此子誰が子ぞ

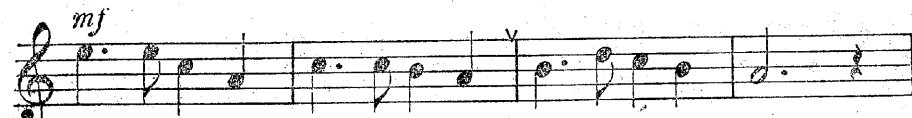
二 勤儉力行 農理をさと  
世に報徳の 教を傳へ  
荒地拓きて 民を救ひし  
功績のあとぞ 二宮神社

# 橘中佐

文部省歌曲



(一) カ バ ネ ハ ツ モ リ テ ヤ マ ラ ツ キ  
(二) み か た は お ほ か た う た れ た り



チ シ ホ ハ ナ ガ レ テ カ ハ ヲ ナ ス  
し ば ら く こ こ を と い さ む れ ど



シ ュ ラ ノ チ マ タ カ シ ヤ オ ン ズ イ  
は ち を お も へ や つ は も の よ



ク モ マ ヲ モ ル ル ツ キ ア ヲ シ  
し す べ き と き は い ま な る ぞ

## 橘中佐

一 かばねは積りて  
山を築き血汐は  
流れて川をなす  
修羅の巷か向陽寺  
雲間をもるゝ月青し

二 「味方は大方  
うたれたりしばらく  
此處を」と諫むれど  
「恥を思へやつはものよ  
死すべき時は今なるぞ

三 御國の爲なり  
陸軍の名譽の爲ぞ」と  
諭したる  
言葉半に散り果てし  
花橘ぞかぐはしき

# 新 入 生

やさしく あまり早くなく ♩=84

北原白秋 歌  
山田耕作曲



チ ヒ サ ナ コ ドモサン シニフセイノ コドモサン



ガ ッコ ヘ ユ ク ナ ラ ツ レ テ ッテ ア ゲ ヨ



ゲ ャゲ ノ ハ ラ ッパ ラ チ カ ミ チ シ マ ショ



チ ヒ サ ナ セイボウサン ウ レ シ サ ウ ナ コドモサン



ア ャズ ノ コ カ ゲ ラ ツ レ テ ッテ ア ゲ ヨ



ア メ ア メ フ ル ナ ラ オ カ サ ニ イ レ ヨ

# 新 入 生 (つゞき)



チ ヒ サ ナ カ バ ン サ ン チ ヒー サ ナ オ ク ツ サ ン



オ ト モ ダ チ ニ ナ リ マ ショー ツ レ テ ッテ ア ゲ ヨ

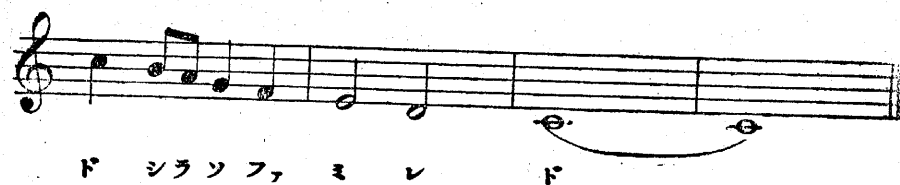
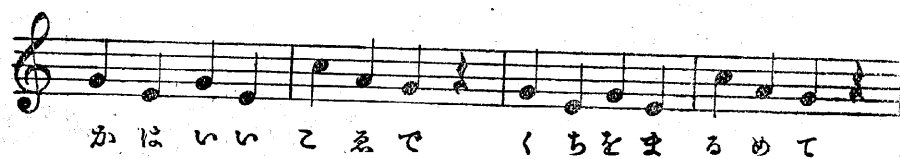
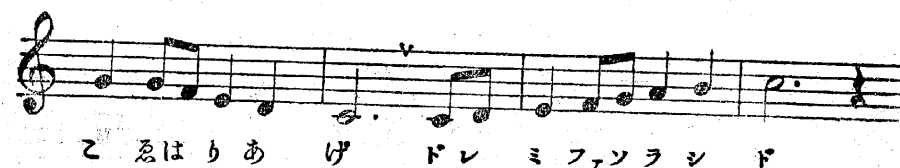


コ ド モ ノ ツ バ メ モ オ サ ソ ヒ シ マ ショ

|                  |                   |               |             |
|------------------|-------------------|---------------|-------------|
| お 子 連 っ お 小 小 小  | お 雨 あ 連 っ 杏 あ う 小 | 近 げ 連 っ 學 新 小 | 新<br>入<br>生 |
| さ ど れ 友 さ さ      | 傘 々 ぐ れ の れ さ     | 道 ん れ 校 入 さ   |             |
| そ も て だ な な      | に ふ て 木 し な       | し げ て へ 生 な   |             |
| ひ の つ ち お 靴 かん   | 入 る つ か さ 制       | ま の つ 行 の 小   |             |
| し 燕 ば て に 靴 ら さん | れ な て げ う 帽       | し 原 て く 小 だ   |             |
| ま も あ な さん       | よ ら あ を な さん      | よ つ あ な ど も   |             |
| ま し げ り ん        | げ 子 さん            | ば げ ら も さん    |             |
| よ よ ま し          | よ ど も さん          | を よ さん        |             |

# うたのけいこ

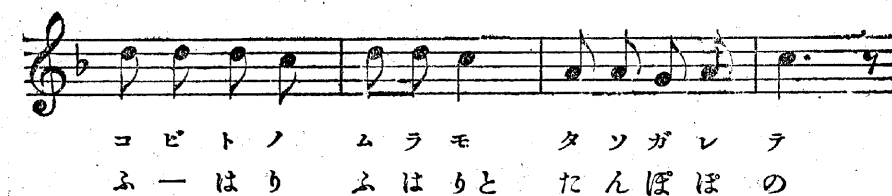
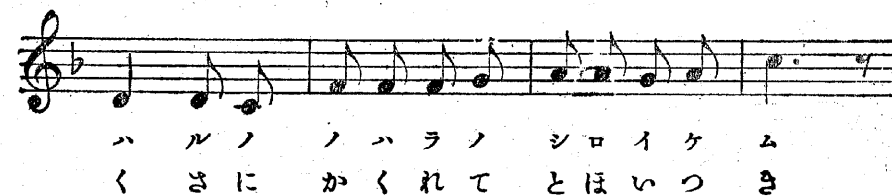
水野薬舟歌  
アメリカ曲



ア ド ロ か ソ ド 聲 ソ ド 歌  
ミ シ を は ラ レ は ラ レ の う  
レ ラ ま い シ ミ り シ ミ け た  
ド ソ る い ド フ あ ド フ い の  
フ め 聲 ア げ ア こ け  
ア て で て こ こ

# たんぼぼ

西條八十歌  
草川信曲



と 白 た ふ 遠 草 赤  
ん い ん は い に い  
で 綿 ぼ り 月 か 小  
行 毛 い く さ な  
く が の と て 煙 突  
は

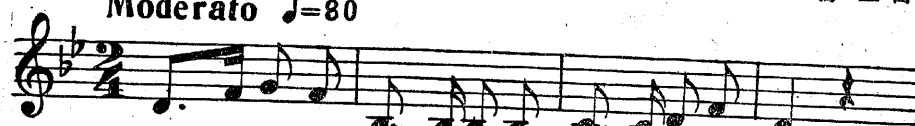
す 夕 た 小 春 と ふ  
る 餡 そ 人 の ん は  
二 頃 じ が の 野 の で り  
か た れ 村 原 行  
く て も の く  
を 白 と  
い 煙

たんぼぼ

# かなりや

西成 條田 八三 歌曲

Moderato ♩=80



(一) ウー タ フ ス レ タ カ ナ リ ヤ ハ  
(二) うー た を わ す れ た か な り や は  
(三) ウー タ フ ス レ タ カ ナ リ ヤ ハ



ウ シ ロ ノ ヤー マ ニ ス テ マ ショ カ イ エ イ エ  
せーど の こ や ぶ に う め ま し か い え い え  
ヤ ナ ギ ノ ムー チ デ ブ チ マ ショ カ イ エ イ エ



ソ レ ハ ナ リ マ セ ヌ  
そ れ も な り ま せ ぬ  
ソ レ ハ

カ ハ イ サ ウ

Allegretto ♩=120



(四) ウー タ フ ス レ タ カ ナ リ ヤ ハ



ゾー ゲ ノ フー ネ ニ ギ ン ノ カ イ

# かなりや (つゞき)



ツ キ ヨ ノ ウ ミ ニ ウ カ ベ レ バ ー



ワ ス レ タ ウー タ フ オ モ ヒ ダ ス

かなりや

一 唄を忘れた金絲鳥は

後の山に棄てましよか

いえゝ それはなりませぬ

二 唄を忘れた金絲鳥は

背戸の小藪に埋めましよか

いえゝ それもなりませぬ

三 唄を忘れた金絲鳥は

柳の鞭でぶちましよか

いえゝ それはかはいさう

四 唄を忘れた金絲鳥は

象牙の船に銀の櫂

月夜の海に浮べれば

忘れた唄をおもひだす

# 酸模の咲ころ

あかるくうれしく ♩=120

北原白秋 歌  
山田耕作 曲



ド テ ノ ス カ ン ボ ジ ャ ヴ ザ ラ サ ヒ ル ハ



ホ タ ル ガ ネ ン ネ ス ル ボ ク ラ セ ウ ガ ク



ジ ン ジ ャ ク ヲ ケ サ モ カ ヨ ッ テ マ タ モ ド



ル ス カ ン ボ ス カ ン ボ カ ハ ノ フ チ



ナ ツ ガ キ タ キ タ ド レ ミ フ ァ ソ

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 夏 | す | 今 | 僕 | 晝 | 土 |
| が | か | 朝 | ら | は | 手 |
| 来 | ん | も | 小 | 螢 | の |
| た | ぼ | 通 | 學 | が | す |
|   |   | つ | 尋 |   | か |
| 来 | す | て | 常 | ね | ん |
| た | か |   | 科 | ん | ぼ |
|   | ん | ま |   | ね |   |
| ド | ぼ | た |   | す | ジ |
| レ |   | た |   | る | ヤ |
| ミ | 川 | も |   |   | ヴ |
| フ | の | ご |   |   | 更 |
| ソ | ふ | る |   |   | 紗 |
|   | ち |   |   |   |   |

酸模のさく頃

# げんげ草

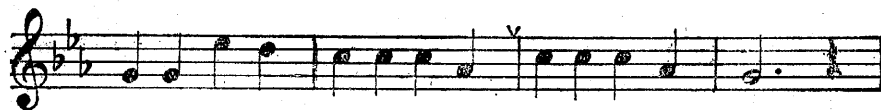
北原白雲 歌



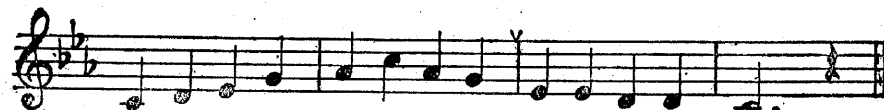
(一) ネンネノ オサトノ ゲンゲサ ウ  
(二) ねんねの おさと はよいな か  
(三) ネンネノ オモリハ キヤセヌ カ  
(四) ねんねの おさと で なかされ て



ボチボチ コウシモ アソンデ ル  
ねんねの おきしで おりたな ら  
チロチロ ヲガハモ ナガレテ ル  
おせどに でてみた げんげさ う



マキバノ マキバノ ゲンゲサ ウ  
みーちは ひとすじ たんぼ みち  
イツダカ ミタヨナ ハシモ アル  
あのあの あーかい げんげさ う



クレダカ トホクデ ヨンデ キル  
わらやに ひももも さいて る  
コヤブノ カゲニハ エンマ ド  
だれだか とほくで よんで る

# げんげ草

ねんねのお里のげんげ草  
ぼちぼち小牛も遊んでる  
牧場の牧場のげんげ草  
誰だか遠くて呼んでる

二

ねんねのお里はよい田舎  
ねんねのお汽車で下たら  
道は一筋田圃道  
藁屋に緋桃も咲いてる

四

ねんねのお守はるやせぬか  
ちよろ／＼小川も流れてる  
いつだか見たよな橋もある  
小藪の蔭には閻魔堂

三

ねんねのお里で泣かされて  
お背戸に出て見たげんげ草  
あのあのあかいげんげ草  
誰だか遠くて呼んでる

# 蝶々のお家

歌 秋 鳴 島 宮  
曲 次 禎 原



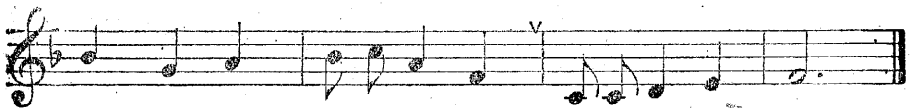
(一) テフテッノ オウチーハ クサノ カ ゲ  
(二) あーかぬ おまどーに つきの か げ



アー オイ オヤネニ アオイ カ ペ  
あーを い カアテン ユるほど に



シー ロ イ オツキサ マ ノゾイ テ モ  
てふ てふ が おめーめを さましま す



ヨ ル ハ ネンネ ノ アカヌ マ ド  
と ほ る よかせ の しのび あ し

## 蝶々のお家

一  
蝶々のお家は草のかげ  
青いお屋根に青い壁  
白いお月様のぞいても  
夜はねんねのあかぬ窓

二

あかぬお窓に月のかげ  
青いカアテンユるほどに  
蝶々がお眼をさまします  
とほる夜風のしのび足

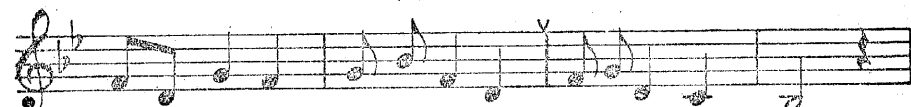
# お家忘れて

歌 秋 鳴 島 弘  
曲 太 郎 田

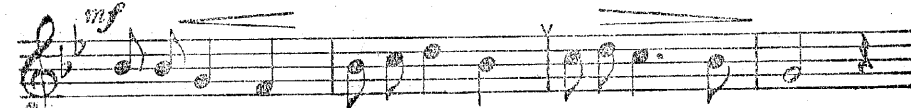
ゆつとりと



(一) オーウチ フスレタ コヒバリ ハ  
(二) おーうち わすれた まよひご の



ヒーロイ ハタケノ ムギノナ カ  
ひばりは ひーとり むぎの な か



カアサン タヅネテ ナイタ ケ ド  
おやまの きつねは なかぬ け ど



カーゼニ ホムギガ ナルバ カー リ  
くーれて さみしい つきあ かー り

二

一

## お家忘れて

一  
お家忘れた  
こひばりは  
廣い畑の麥のなか  
母さんたづねて  
ないたけど  
風に穂麥が  
なるばかり

二  
お家忘れた  
まよひ兒の  
雲雀は一人麥の中  
お山の狐は  
なかなけど  
暮れてさみしい  
月あかり

# 夏の雲

相馬御風歌  
中山晋平曲

明るく晴れやかに

(一) ル リ イ ロ ノ      ウ ミ ノ ム カ フ ノ  
(二) こ み ぎ り の      や ま の む か ふ の

オホゾラニ      ケフモワキデタ      シロイクモ  
おほぞらに      けふもわきでた      しろいくも

ヤハラカサウナ      クモノミネ      アノミネコエテ  
いかめしさうな      くものしろ      あのしろこえて

*mp*      *p*  
ウミコエテ      ワタシノハトヨ      トンデユケ  
やまこえて      わたしのはとよ      どんでこい

## 夏の雲

一、 瑠璃色の海の向ふの  
今日もわき出た白い雲  
やはらかさうな雲の峰  
あの峰越えて海越えて  
わたしの鳩よ飛んで行け  
濃みどりの山の向ふの  
今日もわき出た白い雲  
いかめしさうな雲の城  
あの城越えて山越えて  
わたしの鳩よ飛んで来い

# 秋の山路

芦田 惠之助歌  
メトフエンセル曲

快活に

*mf*

(一) { ア キ ノ ヤ マ デ      キ テ ミ レ パ      ハ タ ノ ソ バ ハ  
      ユ キ ノ ゴ ト ク      ハ ナ シ ロ シ      チ ル ハ モ ミ デ  
(二) { あ き の や ま ぢ      さ て み れ ば      あ ち ば か く こ  
      う た ひ か は す      ふ し を か し      も す も う た ふ

*p*      *mf*

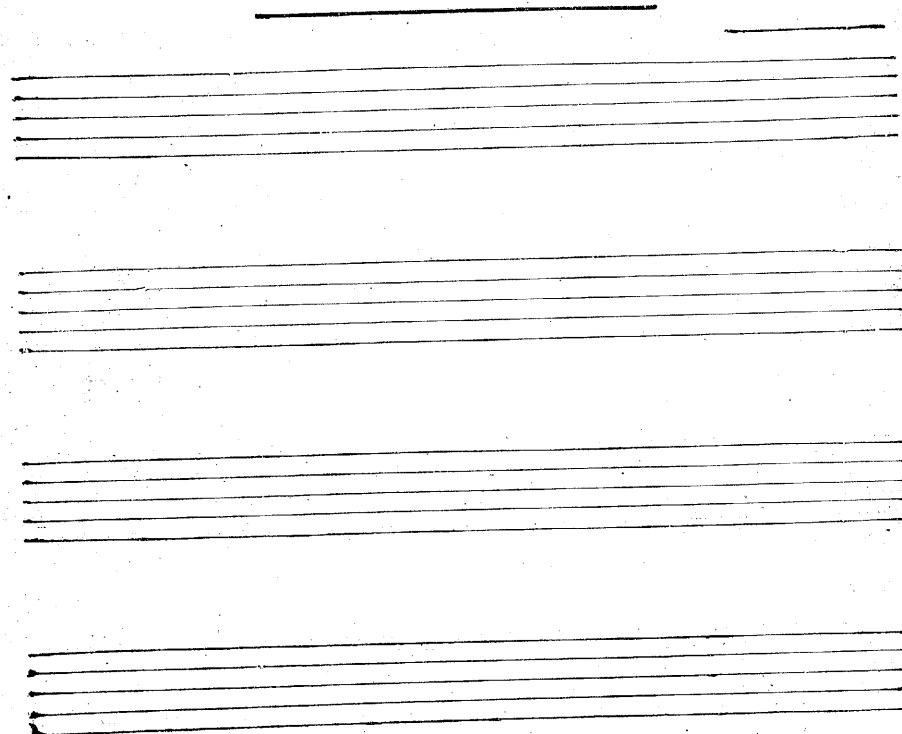
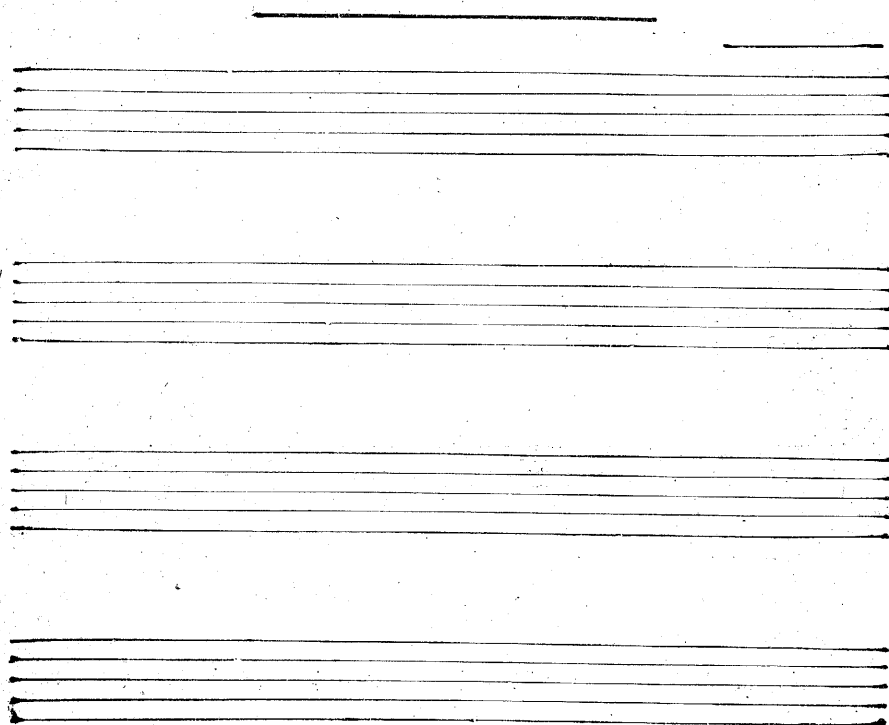
イマサカリ  
カゼナキニ      ア      ハ      レ      オモシロヤ      ウツクシヤ  
うちつれて  
きのえだに      あ      は      れ      おもしろや      うつくしや

コ      ノ      ナ      ガ      メ      ミ      レ      ド      ア      カ      ヌ      コ      ノ      ケ      シ      キ  
こ      の      な      が      め      み      れ      ど      あ      か      ね      こ      の      け      し      き

## 秋の山路

一、 秋の山路来て  
見れば煙の蕎麥は  
今盛り雪の如く  
花白し散るは紅葉  
風なきにあはれ  
面白や美しや  
このながめ見れど  
飽かぬこの景色

二、 秋の山路来て  
見れば落葉かく子  
打連れて歌ひ交す  
節をかし百舌鳥も  
歌ふ木の枝に  
あはれおもしろや  
美しやこのながめ  
見れど飽かぬ  
このけしき



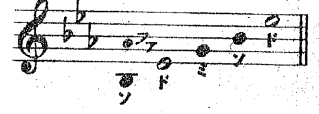
長音階



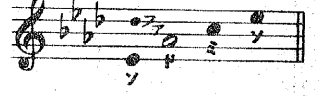
變ロ調



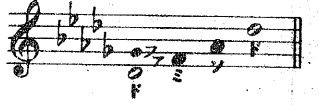
變ホ調



變イ調



變ニ調



ドの早見法

♯の調子は最後の♯  
をシとする。  
♭の調子は最後の♭  
をファとする。

八 七 六 五 四 三 二 一

ド-1  
シ-7  
ラ-6  
ソ-5  
ファ-4  
ミ-3  
レ-2  
ド-1

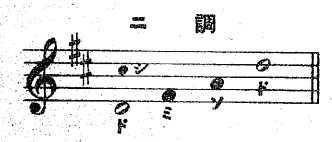
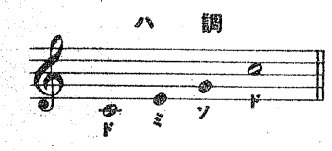
(長音階)

八 七 六 五 四 三 二 一

ラ-6  
ソ-5  
ファ-4  
ミ-3  
レ-2  
ド1  
シ7  
ラ-6

(短音階)

長音階



昭和五年四月五日印刷  
昭和五年四月十日發行  
昭和五年九月十日二版  
昭和六年三月五日三版

「小學生の唱歌」  
埼玉縣版  
埼玉縣小學唱歌

自尋一全六冊各定價金拾參錢  
自高二全二冊各定價金拾五錢

不許  
複製

選定者 埼玉縣教育會  
選曲者 埼玉縣音樂教育研究會  
印刷者 鈴木 凡  
印刷所 東京市牛込區西五軒町四一  
京文社印刷部

發行所

東京市神田區淡路町二ノ二  
振替東京八二二六番

京文社

電話神田(四)三九〇番  
(三)九二番

賣捌店 埼玉縣下各書店

氏名  
住所  
職業

{ カマラ ) 独活杖  
アマラ  
橋本 朝野 号



|    |  |
|----|--|
| 持主 |  |
|    |  |

定價 813